

令和4年度地域部活動推進事業

I 休日の部活動の段階的な地域移行に関する実践研究

富山市教育委員会

●現状・課題

- ・富山市教育委員会では、これまで、協力いただける団体や活用が可能な施設などがある学校に対し、地域への移行に取り組むよう提案してきており、一部の学校においては、既に地域や競技団体の指導者による指導が行われている。
- ・富山市部活動ガイドラインを基に、各校でも部活動ガイドラインを作成し、生徒の健康・安全管理の充実及び教職員の働き方に変化はみられるが、地域部活動への移行に向けて取り組めていない学校、部活動が多いのが現状である。

●実践研究校・競技

大沢野中学校（陸上競技、ソフトテニス、卓球、ボート、剣道、スキー）

●実践内容

- ・地域クラブとしての取組を計画、評価する場として「地域部活動支援会議」、顧問と地域クラブ指導者との間で各部活動の指導方針や練習内容についての共通理解を図り実践の成果や課題について意見を出し合う場として「指導者連携委員会」を設ける。
- ・会議・委員会や活動を通して、部活動と地域クラブの違いを明確にし、休日の地域移行について課題を整理・検証していく。
- ・6つの部活動のうち、ボート競技や陸上競技、ソフトテニス、卓球については、休日において学校外の施設を活用し、地域や競技団体の人材が指導者となる「部活動の地域移行」を進め、冬季にはスキーについても活動する。剣道部は、武道場が近隣にないこともあり、学校の剣道場を中心に活動している。

●参加者の声

- ・生徒のアンケートによると、部活動顧問以外の指導者がいる部活動に所属する生徒の意見として「具体的に指導してもらえて、効果がある」「指導が専門的で、技術向上につながる」という意見が多く見られ、多くの生徒が効果を感じていた。
- ・保護者のアンケートの自由記述の意見の中には、「先生の負担を減らすためには、地域移行を進めたらよい」、「専門的指導が受けられるのはよい」という声が複数見られた。
- ・生徒、保護者ともに指導者の質、費用負担の増加、土日の活動の過熱化に対する不安の声が挙がっていた。

●成果

- ・生徒のアンケートによると、部活動顧問以外の指導者がいる部活動に所属する生徒の意見として「具体的に指導してもらえて、効果がある」「指導が専門的で、技術向上につながる」という意見が多く見られ、多くの生徒が効果を感じていた。
- ・保護者のアンケートの自由記述の意見の中には、「先生の負担を減らすためには、地域移行を進めたらよい」、「専門的指導が受けられるのはよい」という声が複数見られた。

●課題

- ・外部施設は、前年度からの予約が必要であり、活用できないことが多い。
- ・土日昼間の体育館等は部活動の割り当てで、クラブだと活用できない。
- ・指導者、後継者の人材確保、将来的な報酬金のあり方に課題がある。
- ・現在の部活動と地域クラブの違い、保護者会の設立、活動費の徴収など、理解を求めていくことが重要。
- ・生徒や保護者のアンケートには、指導者の質、費用負担の増加、土日の活動の過熱化に対する不安の声が挙がっていた。

●課題解決に向けて

- ・学校施設や市で実施している「学校体育施設等開放事業」についても、どの程度利用可能か、拡充できるか検討していく。
- ・指導者の確保について、地域の体育協会、競技団体等と連携を図る。
- ・部活動の地域クラブ化に必要な条件を整理し、クラブ運営の在り方や実践例を示していくため、ガイドライン策定について協議する場の設定を検討する。

●今後の課題と対応

【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・学校と地域クラブが互いの認識の共有を図り、よりよい連携について検討する協議会の設置

【受け皿団体の確保方策】

- ・学校と地域が連携し、地域一帯となって生徒を支援する体制を構築するための連携調整を図るコーディネーターの配置

【指導者の確保方策】

- ・教員や外部指導者を対象とした部活動やクラブにおける適切な指導についての研修会の開催

【地域特有の課題への対応策】

- ・研究結果や実践例等について、適宜、生徒や保護者への情報提供や意見の収集などを行いながら、当事者間での共通理解